

**「エコマネジメント長野」
～率先取組事例集～**



率先取組事例

節電・省エネ運動「信州省エネ大作戦」への率先的な取組

東日本大震災を背景とした全国的な電力需給の逼迫への対応やピーク電力の削減による発電コスト削減等へ貢献するため、県民総ぐるみの節電・省エネルギー運動「信州省エネ大作戦」に、県機関として率先的に取組みました。

カット・シフト・チェンジの手法など各所属における意欲的な節電の取組により、夏季及び冬季の期間中の最大電力について、県機関の削減目標(H22年度比 夏季10%削減、冬季7%削減)を達成しました。〔節電実績:夏季 21.4%削減(県庁)、14.9%削減(合同庁舎) 冬季:11.7%削減(県庁)、13.8%削減(合同庁舎)〕



エネルギー使用量のグラフ化・見える化・情報共有による取組意識の向上

財産活用課では、節電対策期間中、県庁舎における電力使用量を毎月職員ポータルサイトに掲載し、取組の見える化及び情報共有により、職員の取組意識の向上を図りました。

松本深志高等学校では、「省エネルギーに関する取組み」、「省資源に関する取組み」、「節水、水の効率的利用に関する取組み」、「交通に伴う環境負荷の低減に関する取組み」の4ジャンルに区分し、それぞれのジャンルごとに目標を掲げ、合計20項目の目標を立て節約に努めました。

赤穂高等学校では、エネルギーの使用量等を毎日校務日誌に記載し、情報の共有を図っており、異常時に速やかに発見、対応できる態勢となっています。また、電気使用量のメーターも毎日朝夕確認し、異常の早期発見に努めています。

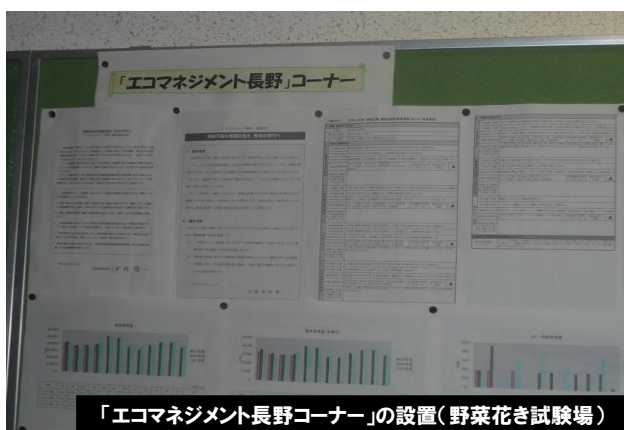
野菜花き試験場では、掲示板に「エコマネジメント長野コーナー」を設置し、電気や水道等の使用量を月毎にグラフ化して掲示し、職員の意識の向上に努めました。

塩尻警察署では、総務課受付掲示板へ「エコ掲示板」を設置し、各種ポスターや警察本部グループの環境方針を掲出し、職員等へ広く周知し、「エコマネジメント長野」への意識向上を図りました。

その他、エネルギー使用量の見える化・情報共有の取組みは、松本家畜保健衛生所、屋代高等学校、林業大学校、千曲建設事務所のほか多くの所属で工夫した取組が行われました。



松本深志高等学校の環境に対する取組20のチェックポイント	
●省エネに関する取組	
1	事務室の照明は、昼休み、授業時には必要のないものを消灯する。
2	ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレなどの照明は、番台は消灯し、使用時にのみ点灯する。
3	空き教壇になる時は、必ず照明やコップを消すようにする。
4	開扉時など長時間使用しない場合は、必ずノートパソコンのふたを閉じる。
5	コピー機等のOA機器は、使用後は省電力モードに切り替える。
6	プリンターやカーテンの利用等により、熱の出入りを調節する。
7	夏期における軽装(クールビズ)、冬季における重ね着など服装(ウォームビズ)の工夫をして、冷暖房の使用を抑える。
●省資源に関する取組	
8	コピー機は、取捨や紙の縮小の誤りなどのミスを防止するため、使用前に各自、設定を確認するとともに、次に使用する人に配慮し、使用後は必ず設定をリセットする。
9	プリンターやコピー機で複製の印刷をする場合、原則として、両面印刷、可能な限り縮小・集約印刷するとともに、トレイを使い分けるなどして、可能な限り紙の消費を抑える。
10	印刷物を残る場合は、その取捨や部数が必要最小限の量となるように考慮し、残部がないように配慮する。
11	資料等は、各人がそれぞれ保管することを促し、共有化を図る。
●節水、水の効率的利用に関する取組	
12	手洗い時、トイレ使用時、洗い物においては、日常的に節水を励行する。(洗剤物の排出抑制、リサイクル、適正処理)
13	使い捨て製品(紙コップ、使い捨て容器等の容器)の使用や購入を抑制する。
14	再使用又はリサイクルしやすい製品を優先的に購入・使用する。
15	詰め替え可能な製品の利用や商品の修理等により製品の長期使用を進める。
16	包装・梱包(段ボール等)の削減、再使用に努める。
17	廃棄物の最終処分先を定期的に、確認、確認する。
●交通に伴う環境負荷の低減に関する取組	
18	公共交通機関の利用、公用車の使用削減に努める。
19	共有自転車を購入して、近距離の用途には公用車を使用せず自転車を利用する。



「エコマネジメント長野コーナー」の設置(野菜花き試験場)



エコ掲示板(塩尻警察署)

デマンド監視装置による電力需要の抑制

岡谷東高等学校では、1月に従前の最大電力を更新してしまい、電気料金更新後の1年間はその時の最大電力量に応じた基本料金となってしまったことで、最大電力量時刻の把握と再び最大電力量を更新することのないようにデマンド監視装置を導入しました。設定最大電力(従前の最大電力量)を越えそうな場合は研究室等に、電気製品の使用を控えるよう連絡をしました。



デマンド監視装置

総合リハビリテーションセンター電気使用量の節減として、デマンドコントロール装置を設置し、電気使用量の抑制に努めました。電気使用量の多い時期には「総務課節電ニュース」を頻繁に作成して職員に配布し、節電を周知しています。

その他、茅野高等学校、松本県ヶ丘高等学校、木曽清峰高等学校などの所属でデマンドコントロール装置を導入し、最大電力及び電気使用量の把握、抑制に努めています。

人感センサーの設置

財産活用課では、西庁舎男女トイレ等 15 カ所に人体感知センサーを設置しました。

小諸商業高等学校では、廊下の明るい場所の蛍光灯の間引きや、人通りの少ない場所の照明にセンサーライトを導入して積極的に節電に努めました。



人感センサー

スイッチの見える化

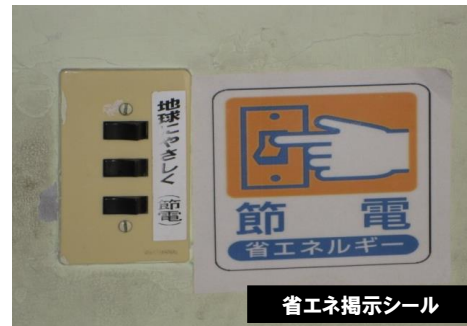
松本地方事務所では、原則消灯しておく蛍光灯のスイッチには赤●、天気状況により消灯する蛍光灯のスイッチには黄●のシールを貼り、必要以上の点灯をしないよう事務室の蛍光灯スイッチに明示しました。また、一定の光量が確保されている窓際や、職員のロッカー上部の照明等の間引きや消灯に取り組めました。

上小地方事務所農地整備課では、節電対策として一般的に行われている照明の一部消灯等の他に、各電源スイッチに電力消費量を表示するなどの「目に見える形」での節電に積極的に取り組みました。

その他多くの所属で、照明機器のスイッチプレート上に点灯箇所を明示する他、「節電」の表示をし、こまめな節電を心がけました。



スイッチの見える化



省エネ掲示シール

LED照明の導入、信号機のLED化

長野保健福祉事務所や川中島水道管理事務所では、廊下やトイレ、浄水場の照明のLED化を行い、節電への積極的な取組が行われました。

財産活用課では、講堂、議場、本館地下廊下などの照明のLED化を行いました。

警察本部では、交通信号機を見やすく、省エネルギー効果の高いLED電灯への切り替えを行っています。平成25年度は、新設信号機を含み、2,214灯のLED型信号機を設置しました。また、社会全体として、誰でも利用できる調和のとれた総合的な交通体系整備のため、光ビーコンの設置を推進しています。平成25年度は、1ヶ所2波の増設を行いました。



その他多くの所属で、外灯のLED化、事務室照明を高効率型に改修するなど、施設の修繕・改修の機会を捉えて省エネ型照明を導入しました。

暖房エネルギーの削減

工業技術総合センター精密・電子技術部門では、加工塔2階のマシンルームに作成した排出口から、コンプレッサーの排熱を廊下に放出し、廊下やそれに続く階段まで、排熱を利用して暖めることで、暖房に伴う燃料使用量の削減に繋がりました。

北安曇地方事務所税務課では、冬期は事務室内の窓に目張りをし、断熱効果を高め、省エネに積極的に努めました。

上伊那農業高等学校では、花き育成用温室の冬季の暖房費を抑制するため、温室内側に放熱防止のビニールカーテンを貼って灯油使用量の抑制に努めました。



緑のカーテンやよしずによる日射負荷低減の取組

アサガオやゴーヤなどを育成した「緑のカーテン」作りやよしずの利用の取組が多くの所属で行われました。夏季の直射日光を遮り、室内温度の上昇を抑える省エネ効果とともに、目にも涼しいグリーンカーテンは、職場環境の向上や来庁者へのアピールなど様々な効果が期待されます。

「緑のカーテン」では、一般的なアサガオの他にゴーヤやヘチマ、インゲン、キュウリ、ミニトマトなども植えられました。

期待どおりに育たなかった所属もありましたが、朝からきれいに咲いたアサガオは、職員や来庁されるお客様を癒してくれました。



文化財・生涯学習課



南信農業試験場



塩尻駅前交番



須坂建設事務所



塩尻警察署交通課



中野警察署

公用車燃料の削減

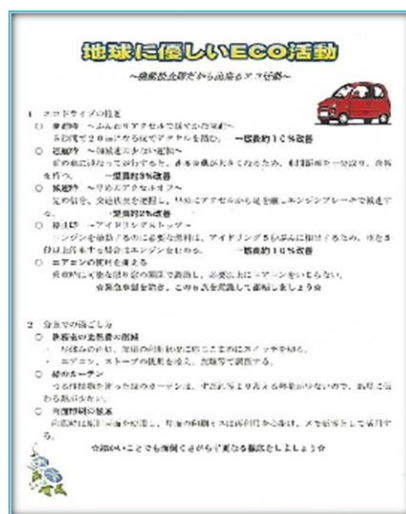
道路建設課では、自動車使用簿の表紙に「エコドライブのポイント」を掲載することで、課の自動車を使用する際にはエコドライブについて意識できるようにしました。

諏訪農業改良普及センターでは、公用車のキーボックスに車両ごとの前年度の燃費及び燃費の良い車から使用する旨を掲示した結果、平成 24 年度比で総走行距離は伸びているが、燃料使用量は減りました。

佐久地方事務所商工観光課では、県庁への単独出張の際は、原則として公用車を使用せず、高速バス利用によりガソリン使用料の節減に努めました。またその結果として旅費の節減にもつながっています。

交通機動隊では、「エコ活動」を推進する目的で、職員がエコドライブを学びました。

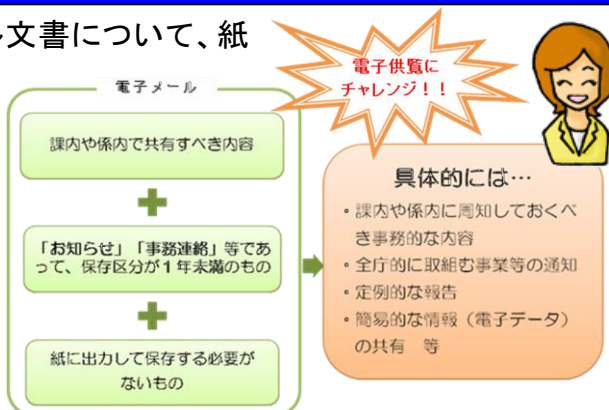
その他にも、木曽地方事務所環境課や木曽農業改良普及センターなどで、ガソリン使用料や燃費をグラフ等にまとめ、エコドライブに対する意識の向上を図っています。



紙使用量の削減の取組

情報公開・法務課では、受信した電子メール文書について、紙に出力することなく、文書管理システムの機能を利用して供覧を行う「電子供覧」を試行しています。プリンター出力による用紙の削減、事務の効率化、保存文書の削減による文書保管スペースの確保等行政コストの削減にも繋がりが、本来業務における環境配慮の取組を推進しています。

生活排水課では、この内部事務システムの



電子供覧を約 120 件／年行い、節減を図りました。

その他多くの所属で、不要書類の裏紙利用や両面印刷の徹底などの取組が行われました。



コピー機には裏紙専用トレイを設定



封筒の再利用など省資源の取組



コピー用紙の乾燥保管による
紙詰まりの防止

太陽光発電設備等の導入と地域への普及啓発

自然エネルギーの普及促進を図り、持続可能な地域社会づくりを推進するため、県有施設への太陽光発電設備等の設置や地域への普及啓発を行っています。

諏訪湖流域下水道豊田終末処理場では、おひさまBUN・SUNメガソーラープロジェクトとして屋根を民間事業者(岡谷酸素株式会社)への貸し出しを行いました。また、本事業により得た知見及び事業ノウハウ等を公開し、県内における「地域エネルギー事業者」創出促進に資する取組となっています。



諏訪湖流域下水道豊田終末処理場(写真 岡谷酸素)

節水の取組

佐久家畜保健衛生所では、建物の屋根の雨水を 300 リットルのタンクに貯め、長靴や車両の洗浄と消毒等に利用しました。

長野家畜保健衛生所や千曲川流域下水道建設事務所では、ポリバケツやタンク等に雨水を溜めて、緑のカーテンへの散水や公用車の洗車に利用し、節水に努めました。

更級農業高等学校では、プールの使用期間を授業との調整を図って見直し、水道使用量を削減しました。

駒ヶ根警察署では、女子トイレ各階に、使用中のエチケットの音消しとして「ECO メロディ」を設置して、水量の半減を図り、節水を行いました。



廃棄物排出量の削減

各所属において、廃棄物の排出量を削減し資源化を進めるため、ごみの分別を徹底しました。

工業技術総合センター環境・情報技術部門では、業務内容に合ったスムーズな分別方法を随時検討して改善を図り、そのフローチャートを掲示して周知・徹底を図りました。また、廃棄物の排出時には、各職員がその重量を計量して、自らが排出する量を把握・認識しています。

須坂商業高等学校では、放置自転車を須坂市より引き取り、生徒自身の手で新品同様に再生し、須商マーケットで販売する取組を実施し、abnステーションや信濃毎日新聞で報道されました。

。



緊急事態対応

木曽保健福祉事務所では、危機管理の対応として、全職員のメーリングリストを作成し、緊急時等において迅速に情報伝達が行えるよう日頃から備えています。

工業技術総合センター食品技術部門では、消防訓練に合わせて「有害物質流失事故発生対応マニュアル」に沿った緊急事態対応訓練を実施し、日頃から緊急事態に備えています。また、オイルタンクの近くに土のうを置き、オイル漏れに即対応できるよう準備しています。

環境学習・活動、環境保全の取組

環境学習・活動については、特に高等学校において取組が行われています。

中野西高等学校では、職員、生徒が一緒になって年1回全校クリーンオリエンテーリングを実施し、地域の環境美化に取り組んでいます。(今年で30回目) クラスマッチ形式でグループ毎に市内の公共施設や寺社、旧跡を周り、それぞれの場所でその場所にまつわるクイズを解きながら(クイズの正解で得点)、落ちているごみを拾い集める(拾ったごみの量で得点)ことにより、地域を知り、その地域の環境美化に対する意識の高揚を図りました。



阿南高等学校の生徒会では、地元住民グループとともに、県とアダプトシステムの協定を結び、学校周辺道路の花壇作りやごみ集めなど清掃美化活動に取り組んでいます。